

大阪市の方針について

目標:

こどもたちの未来が生まれ育った環境によって左右されることなく、自らの可能性を追求できる社会の実現をめざす

経過

＜実態調査項目・実地方法＞

第1回大阪市こどもの貧困対策推進本部会議 (H28. 2. 29)

…実態を把握し市の特徴をつかむため、実態調査の実施を確認 (調査対象、規模など)

第2回大阪市こどもの貧困対策推進本部会議 (H28. 6. 2) …調査項目、実施方法を決定

子どもの生活に関する実態調査の概要

- ◆ 調査期間 6月27日～7月14日
- ◆ 調査対象 約6万世帯⇒地域性について把握
 - ・大阪市立小学校5年生の全児童とその保護者
 - ・大阪市立中学校2年生の全生徒とその保護者 (特別支援学校を含む)
 - ・市内認定こども園、幼稚園、保育所、一部認可外保育施設の5歳児クラスの児童の保護者

- ◆ 調査方法 無記名方式とし、学校園・保育所を通じ配付・回収
 - 児童・生徒と保護者の回答を紐付け
 - ⇒児童の生活習慣や学習環境と世帯状況との関係性を把握
- ◆ 回収率

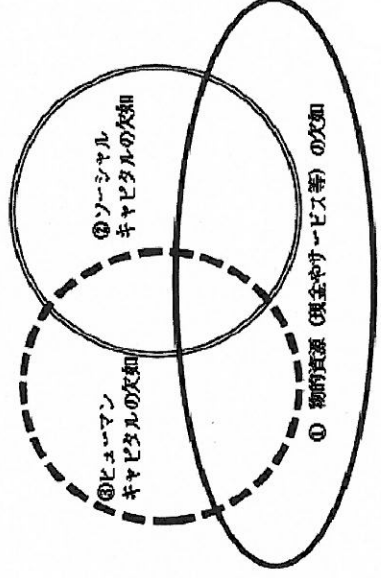
小学校5年生 (児童・保護者)	81.1%
中学校2年生 (生徒・保護者)	75.1%
5歳児保護者	76.5%
全体	77.6%

【子どもの生活に関する実態調査スキーム】

※学識者等の貧困研究における基本的な枠組み

⇒円が重なるところが困難を抱えた層

- ①物的資源や生活に必要な資源の欠如 (現金やサービス、住宅、医療など)
- ②ソーシャル・キャピタルの欠如 (つながりの欠如、近隣、友人との関係性、学校、労働市場への不参加など)
- ③ヒューマン・キャピタルの欠如 (教育レベル>雇用の可能性>自分の能力を労働力 (稼働) に転換する能力の欠如)



取り組む施策と主な速報値

①物的資源の欠如 (現金やサービス、住宅、医療など)	小学生		中学生	
	大阪市	全国	大阪市	全国
週にどれくらい朝食を食べているか「食べない」※1	1.1%	0.9%	2.9%	1.8%
週にどれくらい夕食を食べているか「毎日またはほとんど毎日」以外	1.1%	—	1.7%	—
学習塾等に通っていない理由「通いたい親に負担をかけられない」	15.3%	—	17.0%	—
経済的理由で「子を学習塾等に通わせられなかった」(※保護者調査)	10.6%	—	11.9%	—

②ソーシャルキャピタルの欠如 (つながりの欠如、近隣、友人との関係性、学校、労働市場への不参加等)	小学生		中学生	
	大阪市	全国	大阪市	全国
おうちの大人のひとと学校の出来事について話しかけるか「ほとんどない」「まったくない」	13.0%	—	18.4%	—
悩み相談相手「誰にも相談したくない」	10.5%	—	13.2%	—
月～金の放課後誰と過ごすか「一人である」	17.0%	—	18.8%	—
心配事や悩みを親身になって聞いてくれる人「2いない」(※保護者調査)	5.9%	—	7.0%	—

③ヒューマンキャピタルの欠如 (＜教育レベル＞雇用の可能性＞自分の能力を労働力(稼働)に転換する能力の欠如)	小学生		中学生	
	大阪市	全国	大阪市	全国
学校のある日授業時間以外に一日あたりどれくらい時間勉強するか「まったくしない」※1	6.8%	3.0%	13.6%	5.5%
学校の勉強についての気持ち「よくわかる」※2	32.7%	58.4%	13.1%	36.2%
自分に自信があるか「ない」	11.1%	—	25.2%	—
将来の夢や目標を持っているか「持っていない」※1	6.8%	6.4%	18.4%	10.8%
学校に遅刻することがあるか「遅刻はしない」以外の選択	15.2%	—	10.0%	—

※1 全国数値：平成28年度全国学力・学習状況調査(小5・中3対象) ※2 全国数値：平成25年度小・中学生の意識に関する調査(小4～中2対象)

見えてきた課題
(脆弱性・欠如)

・生活習慣の未定着
(・学習習慣の欠如)

(・つながりの欠如)

・学習習慣の欠如
・自己肯定感の欠如
(・生活習慣の未定着)

取り組む施策

・学習習慣の定着
学びの支援を行う
ことで学習習慣の
定着、学習意欲の向
上をめざす。

・居場所づくり
地域との交流を通
じ、つながりをつく
り、自尊感情を醸成
するとともに、学
習・生活習慣の定着
をめざす。